

道の駅「きらら あじす」魅力アップ事業計画

令和2年（2020年）3月
山口市阿知須総合支所

目 次

1. 計画策定の目的	1
2. 現状と課題	2
(1) 道の駅「きらら あじす」の現状	2
① 立地	
② 施設の概要	
③ 来場者数及び売上額	
④ 農水産物出荷者の現状	
⑤ 周辺道路状況	
(2) 道の駅「きらら あじす」が抱える課題	7
① 快適な休憩のための「たまり」空間の不足	
② 物品販売施設の狭隘化	
③ 駐車場の改善	
④ 農産物出荷者確保対策	
⑤ 山口きらら博記念公園等との連携強化	
3. 基本方針	11
(1) 基本方針	11
(2) 数値目標	12
(3) 計画期間	12
4. 魅力アップに向けた取組内容	13
(1) 施設整備	13
① 施設の増築及び改修	
② 駐車場の整備	
③ 屋外トイレの改修	
(2) 魅力アップの取組	14
① イベント啓発、交流事業	
② 農産物・特産品の販売促進、供給力向上	
③ 人材育成、研修	
④ 環境整備	
⑤ 地域連携強化	
⑥ 情報発信	
5. 進行管理	22
6. 事業実施スケジュール	23

1. 計画策定の目的

本市では、第二次山口市総合計画に掲げている、都市政策の柱のひとつである「個性と安心の21地域づくり」に基づき、各総合支所において、地域資源を活用した地域経済活性化計画である「ふるさとにぎわい計画」を平成30年度に策定したところでは、

「阿知須地域ふるさとにぎわい計画 きらら・あじすプロジェクト」では、道の駅「きらら あじす」を交流の核として、地域の農水産物や特産品の販売拡大と、多くのイベントやスポーツ大会が実施される山口きらら博記念公園との近接性を生かした交流人口拡大に向けた取組を進めることとしています。

『道の駅「きらら あじす」魅力アップ事業計画』（以下「事業計画」という。）は、「阿知須地域ふるさとにぎわい計画 きらら・あじすプロジェクト」に示された考え方に基づき、道の駅「きらら あじす」の機能強化に向け、具体的な事業内容等を取りまとめるものです。

策定にあたっては、阿知須地域づくり協議会をはじめ、山口県央商工会阿知須支所、山口きらら博記念公園指定管理者、地域おこし協力隊、道の駅「きらら あじす」指定管理者、その他関係諸団体等で構成する官民連携による『道の駅「きらら あじす」魅力アップ推進協議会』を令和元年8月に設置し、道の駅「きらら あじす」の抱える課題・問題点の共有並びに交流人口の増加及び経済効果を生み出すソフト・ハードに関する事業内容の検討を行い、事業計画に基づく事業を推進していくものです。

2. 現状と課題

(1) 道の駅「きらら あじす」の現状

平成17年3月に本市阿知須にオープンした道の駅「きらら あじす」は、阿知須地域における産業の振興を図るとともに、豊かな自然環境を生かし、農村と都市との交流を促進することにより、地域の活性化を図ることを目的に市が設置した公の施設として、指定管理者により管理運営が行われています。

①立地

道の駅「きらら あじす」は、山口市内中心部から車で約30分、JR新山口駅から車で約15分、県道山口阿知須宇部線と県道きらら浜沖の原線交差点の北東に位置しています。

道の駅「きらら あじす」が位置するきらら浜には、山口きらら博記念公園及び山口県立きらら浜自然観察公園の2つの県立公園があり、ここでは集客力のある様々な大規模イベントが開催されており、今後も、市内外における交流人口の更なる増加が期待できます。

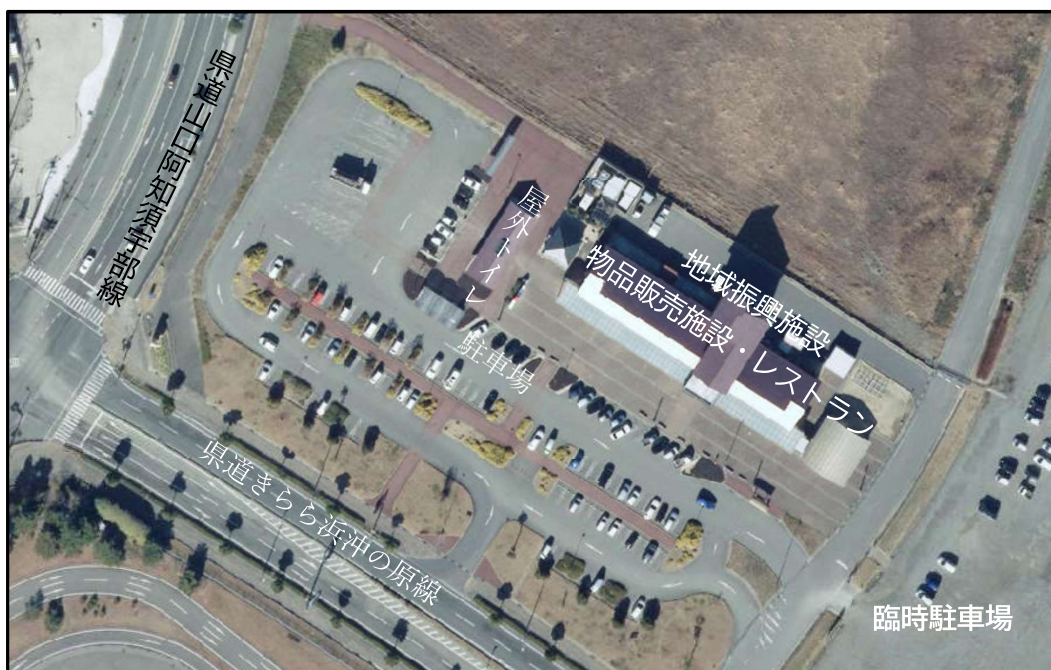


②施設の概要

道の駅「きらら あじす」の施設概要（現況）

道の駅登録	平成16年8月9日 山口県第18号
開業	平成17年3月26日
住所	山口市阿知須509-88（きらら浜）
敷地面積	16,536㎡（県12,037㎡、市4,499㎡）
名称	概要
地域振興施設	建物：1,168㎡ 物品販売施設 257㎡、パン工房 38㎡、軽食 12㎡、 餅工房 23㎡、情報案内・休憩所 92㎡、 レストラン 200㎡、会議室・展示ホール 90㎡ トイレ：男性(大)2、(小)3、女性3、多目的 1
駐車場	99台（普通車92台・大型車4台・身障者用3台）
屋外トイレ	男性(大)2、(小)4、女性6、多目的 2
東屋	20㎡
屋外広場	100㎡

地域振興施設では、地元の農家が栽培した野菜をはじめ、市内で作られた特産品、地元産のもち米を使ったつきたての餅、焼きたてのパンなどを販売しています。7月には阿知須特産の栗より甘いカボチャ「くりまさる」が店頭に並び、また、軽食コーナーではそのくりまさるを使用したかぼちゃソフトが人気商品となっています。



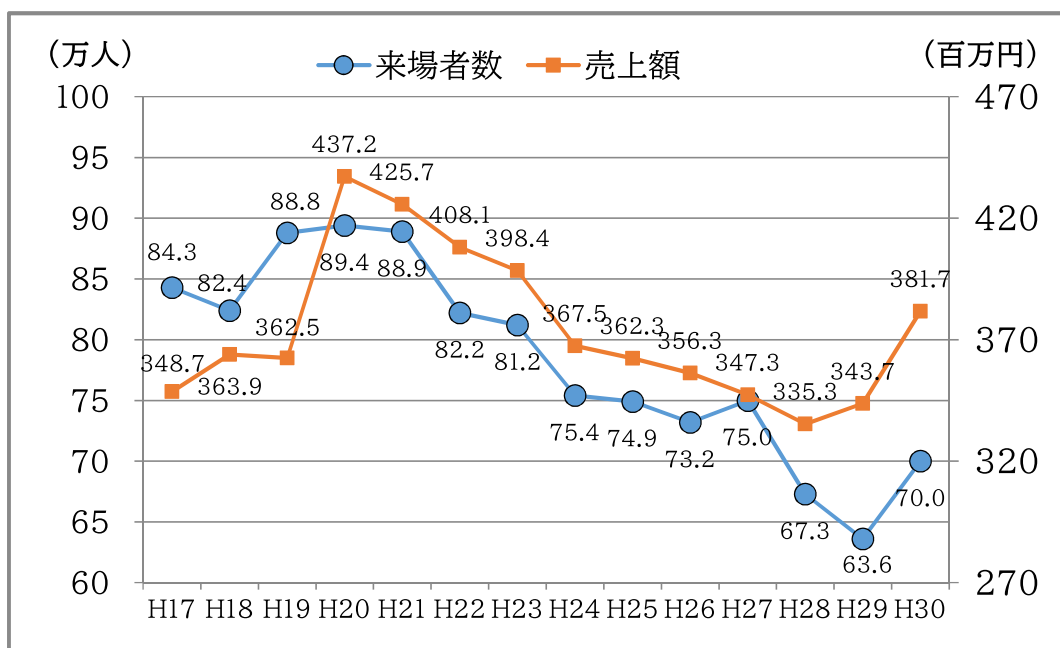
道の駅「きらら あじす」の施設配置

③来場者数及び売上額

道の駅オープン以降、来場者数及び売上額ともに増加傾向で推移し、平成20年度の来場者数89万4千人、売上額4億3,700万円をピークに以降は減少が続いていましたが、平成30年度は近接する山口きらら博記念公園において「山口ゆめ花博」が開催されたことから来場者数は70万人となり、前年度に比べ6万4千人の増、売上額は3億8,200万円となり、前年度と比べ3,800万円の増加となりました。しかし、効果は一時的なものであり、来場者数及び売上額の増加につながる対策が必要です。

こうした中、南部地域の農業者や漁業者、商工業者、地域おこし協力隊などが連携し、地域資源を活用した特産品の開発に取り組まれており、阿知須特産のくりまさるを原材料に使用した加工商品の売上も順調に伸張し、特産品の売上額は増加傾向にあります。

道の駅「きらら あじす」来場者数、店舗売上額の推移



④農水産物出荷者の現状

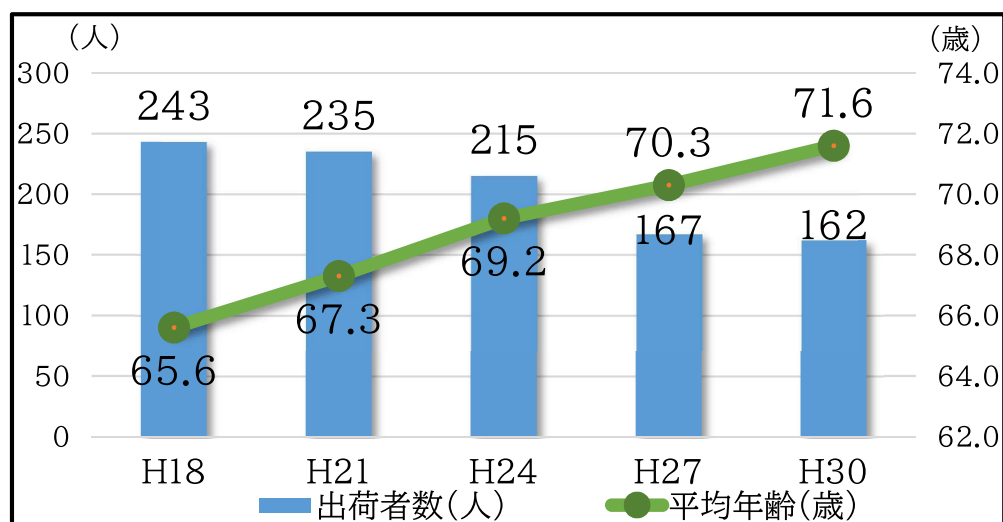
a. 農産物

道の駅「きらら あじす」における農産物出荷組織は道の駅オープンにあわせ、阿知須地域で採れた新鮮な野菜や魅力ある特産品を道の駅に供給することを目的に、JA山口宇部阿知須支所における「生産部会」という方式で設立されました。平成27年度からは、JA生産部会から独立して道の駅の出荷に特化した「道の駅きららあじす出荷者協議会」に組織を改編されました。

会員数は平成18年度の243人から減少傾向にあり、平成30年度現在は162人となっています。また、会員の平均年齢は平成18年度の65.6歳から平成30年度は71.6歳へ6.0歳上昇しており、会員の高齢化が進んでいます。

なお、会員の要件は阿知須地域に在住の個人及び地域内の団体に限定されています。

農産物出荷者数と平均年齢の推移



b. 水産物

オープン当初は、阿知須漁港や秋穂漁港で水揚げされた瀬戸内海産の魚介類を、阿知須漁協を通して道の駅「きらら あじす」が調達し、対面方式で消費者に販売していました。しかし、オープンから数年が経ち、高齢化に伴う漁業者の減少から魚介類の水揚量が減少、合わせるように道の駅鮮魚直売所も売上額が減少していき、平成28年度からは対面方式での販売を中止しました。

現在は山口市内の山口県漁業協同組合各支店で構成する「山口市地元産水産物出荷者協議会」に所属する漁業者自らが加工、パック詰め、値決めをして、道の駅に出荷しています。

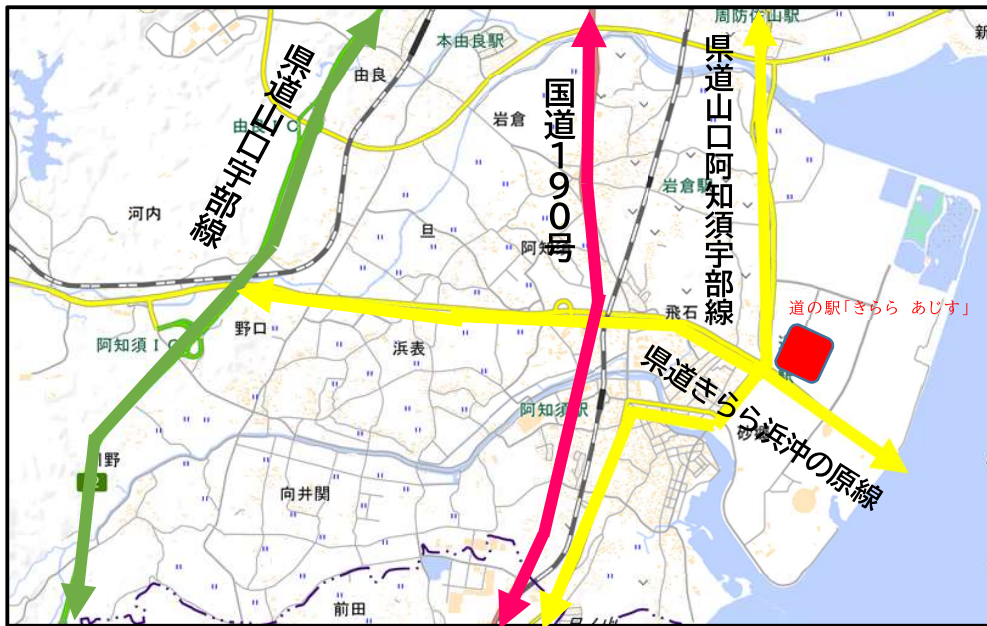
⑤周辺道路状況

阿知須地域の道路状況は、国道190号と県道山口阿知須宇部線が本市南部地域から宇部市方面へ連絡しています。また、県道山口宇部線は本市中心部と宇部市を結んでおり、山口宇部空港や山陽自動車道へアクセスしています。

道の駅「きらら あじす」への主なアクセス道路は、西側に位置する県道山口阿知須宇部線と南側に位置する県道きらら浜沖の原線となり、両路線とも平成13年にきらら浜で開催された山口きらら博に合わせて整備された道路です。

交通状況については、平成24年に県道山口宇部線の無料化により、道の駅「きらら あじす」に接する県道山口阿知須宇部線の交通量は大幅に減少しており、平成27年度全国道路・街路交通情勢調査一般交通量調査における24時間交通量（前面道路）は8,840台/日であり、平成22年と比較すると、6,368台/日、42%の減少となっています。

道路交通体系図



主な周辺道路交通量

国土交通省 全国道路・街路交通情勢調査

	県道山口阿知須宇部線(前面区間)				国道190号				県道山口宇部線			
	平日自動車類交通量(台)			伸び率 (%)	平日自動車類交通量(台)			伸び率 (%)	平日自動車類交通量(台)			伸び率 (%)
	小型車類	大型車類	計		小型車類	大型車類	計		小型車類	大型車類	計	
H17	-	-	13,586	-	-	-	14,442	-	-	-	6,439	-
H22	13,574	1,634	15,208	12	11,214	1,347	12,561	▲13	6,794	773	7,567	18
H27	8,155	685	8,840	▲42	6,431	392	6,823	▲46	23,137	2,158	25,295	234

(2) 道の駅「きらら あじす」が抱える課題

事業計画の策定にあたり、道の駅「きらら あじす」における来場者の特徴及びニーズ等を的確に把握するため、平成31年2月下旬から3月下旬にかけてアンケート調査を実施しました。

課題の抽出にあたっては、来場者アンケート結果を踏まえた上で、次の5つを課題として整理しました。

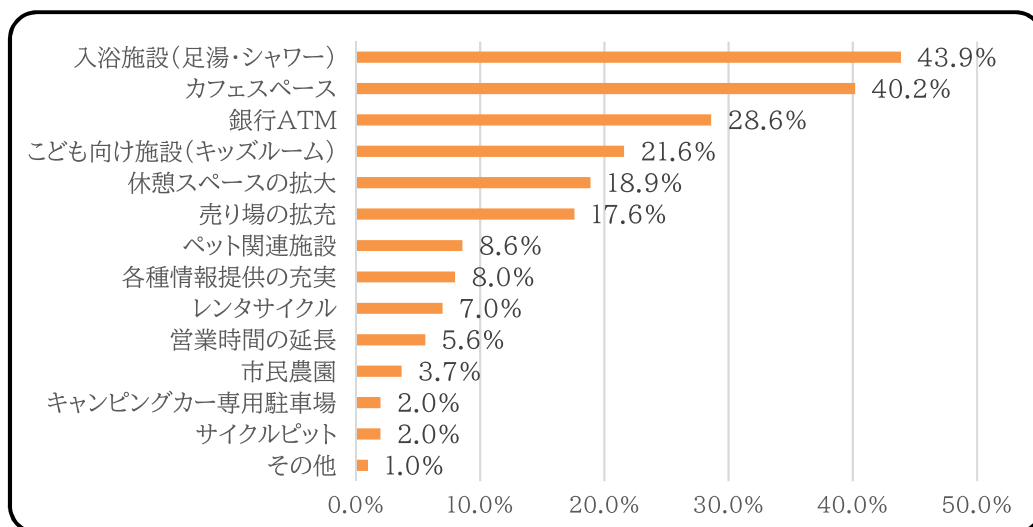
① 快適な休憩のための「たまり」空間の不足

道の駅「きらら あじす」を目的地として訪れる人も多く、来場者の滞在時間も長くなっており、休日には休憩施設の不足が顕著になっています。

来場者アンケートにおいて、来場目的を尋ねたところ約14%の方が休憩・休息を目的に来場されていました。

また、道の駅「きらら あじす」にあればいいと思うサービスについて尋ねたところ、「カフェスペース」や「こども向け施設(キッズルーム)」、「休憩スペースの拡大」といった休憩施設の拡充を望む意見が多くありました。

【道の駅にあればいいと思うサービス】



休憩施設の状況(休日) 施設内休憩所



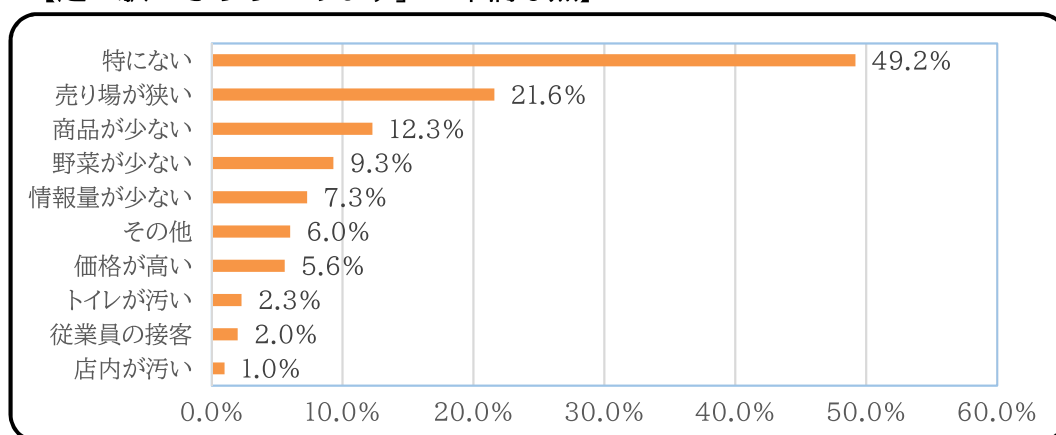
屋外休憩スペース

② 物品販売施設の狭隘化

地元で採れた新鮮な農産物や地域の特産品を販売するなど、土日には多くの来場者でにぎわっています。しかし、施設内の通路が狭く買い物がしづらい上、午前中の混雑時にはレジ付近に人が滞留するなど、来場者の動線が確保できていない状況です。

また、特産品を陳列するスペースが狭隘で販売できる商品数も限られていることから、特産品や弁当など売れ筋商品の新規出荷者の受け入れが困難になっており、商品を供給するための売り場レイアウトの再検討や改善に取り組む必要があります。

【道の駅「きらら あじす」の不満な点】



③ 駐車場の改善

来場者アンケートにおいて、道の駅「きらら あじす」を利用して困った経験や嫌だった経験を記述式で尋ねたところ、「イベント時における駐車場の不足」や「駐車スペースに仕切りが多く狭い」など、駐車場に不便を感じている意見がありました。

現状は、駐車場内の一部で樹木が見通しを悪くし駐車時の視界を遮っていること、駐車場と緑地帯に段差が生じていることが不便との印象を与えている原因と考えられます。

このようなことから、駐車場の利便性向上が課題となっています。

休日の駐車状況



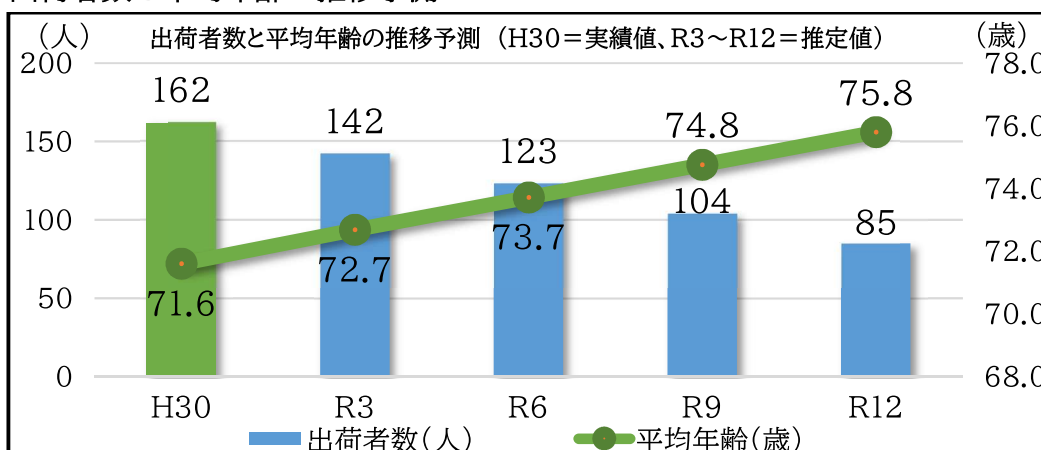
④ 農産物出荷者確保対策

農業者の高齢化問題は、農業を取り巻く環境が厳しさを増す中で、道の駅出荷者においても後継者の確保が大きな課題となっています。

現状を踏まえた中で、今後も出荷者の減少が課題となっており、令和12年度には85人にまで減少すると予測されます。また、平均年齢も令和12年度には75.8歳に上昇すると予測されます。

現在の出荷者が徐々に高齢化して農産物の安定供給が難しくなる中で、5年後や10年後を見通して、新規登録農業者の育成とあわせ地域外の農家でも出荷できる仕組みを作ることが必要です。

出荷者数と平均年齢の推移予測



⑤ 山口きらら博記念公園等との連携強化

道の駅「きらら あじす」に近接する、山口きらら博記念公園では、「県民の交流・参加を通じたスポーツの振興」を図るため、年間を通じて駅伝、サイクリング、トライアスロン、水泳などのスポーツ大会が開催されています。また、ワイルドバンチなどの大規模集客イベントのほかにも、土日を中心に多数のイベントが開催されており、県内外から多くの人々が訪れています。

また、山口県立きらら浜自然観察公園では、野鳥などのたくさんの生きものと、その生息環境を守りながら、だれでも身近に自然を観察し、自然に親しむことができる公園として、バードウォッチングや干潟の生き物観察会などが開催されています。

道の駅来場者アンケートにおいて、最も好きな道の駅を「きらら あじす」と回答した人にその理由を尋ねたところ「山口きらら博記念公園との近接性」が多く挙がっていました。

今後も、山口きらら博記念公園等と各種イベントを通じて連携を図りながら、交流人口の増加につながる取組の推進が必要となっています。



大芝生広場から見たきららドーム

水泳プール

3. 基本方針

道の駅「きらら あじす」の機能強化と魅力アップにあたっては、現状と課題を踏まえ、基本方針等について以下のとおり設定します。

(1) 基本方針

基本方針1：「道の駅」としての基本機能の強化

来場者の利便性向上のため、「道の駅」としての基本機能である休憩機能、情報発信機能、地域連携機能の強化に向けた施設整備を図り、利用者から選ばれる「道の駅」を目指します。

基本方針2：交流の拠点としてのにぎわい創出

「きらら浜」の各施設が相互に連携を図りながら、情報発信やアウトドアスポーツをはじめとした各種イベントの開催により「きらら浜」における周遊性を向上させ、交流の促進を図ります。

基本方針3：地元農水産物の供給力向上と新たな特産品の開発・販売による地域経済の活性化

年間を通じて新鮮な地元農水産物の安定的な供給を図るとともに、オリジナル商品の充実や地域資源を活用した魅力ある特産品の開発に取り組むことで、道の駅「きらら あじす」に多くの人が集まり、将来にわたり維持・発展させる取組を進めていきます。

あわせて、阿知須地域内の農業の発展を販売面から推進していくために、地域内の直売所等と連携し、相互に情報発信を進めることで直売所等の利用促進を図り、地域全体の経済の活性化を促進します。

(2) 数値目標

平成30年度に策定した「阿知須地域ふるさとにぎわい計画」に基づき、本事業計画の目標を設定します。本事業計画に掲げる『魅力アップに向けた取組内容』を着実に実行することで、数値目標の実現に向け取り組んでいきます。

	基準値 (H29年度)	令和 元年度 (1年目)	令和 2年度 (2年目)	令和 3年度 (3年目)	令和 4年度 (4年目)	令和 5年度 (5年目)	計画期間 中の増加 分の累計
道の駅の 売上額 (千円)	343,746	344,246	344,996	346,246	346,246	388,746	45,000
道の駅の 来場者数 (人)	636,102	640,102	646,102	656,102	656,102	710,102	74,000

目標：売上 4,500 万円、来場者数 74,000 人の増加

(3) 計画期間

計画期間は、令和元年度から令和5年度までとします。

4. 魅力アップに向けた取組内容

(1) 施設整備

「道の駅」としての基本機能の強化に向け、以下の内容に基づき、施設整備を検討します。

① 施設の増築及び改修【新規】

来場者アンケートにおいて休憩施設の拡充を望む意見が多くあったことを踏まえ、施設の増築及び改修を計画します。

整備スケジュールについては、令和2年度に情報案内・休憩所の拡充、物品販売施設の改善、レストラン機能の強化等の課題を踏まえ、施設の規模や配置などの基本設計に着手します。令和3年度からは実施設計を行い、その後、工事に着手し、令和4年度までには施設整備を完了させる予定です。

② 駐車場の整備【新規】

来場者の利便性向上及び満車等に伴う機会ロス対策の一環として、駐車場改良工事を実施します。

本工事の期間は令和2年度とし、駐車場内にある緑地の一部取り壊し及び樹木の撤去を行い、ゆとりのある駐車スペースの確保を図ります。

普通車：59台増加（92台→151台） 大型車：1台増加（4台→5台）
身障者用：1台増加（3台→4台）

③ 屋外トイレの改修【新規】

「道の駅」のトイレは、バリアフリー対応はもちろんのこと、すべての人が利用しやすいユニバーサルデザイン※に配慮した快適な空間としてのニーズが高まっており、近年、従来の和式便器から洋式便器への切り替えが進んでいます。

道の駅「きらら あじす」の屋外トイレにおいても、来場者の利便性向上を図るため、本計画期間内にすべての便器を洋式便器へ改修を予定してします。

既設便器数（男性2基、女性6基） 洋式整備済み（男性1基、女性2基）
改修予定数（男性1基、女性4基）

※ユニバーサルデザインとは、文化・言語・国籍や年齢・性別などの違い、障害の有無や能力差などを問わずに利用できることを目指した建築・製品・情報などの設計（デザイン）のことです。

(2) 魅力アップの取組

魅力アップ事業の実施にあたっては、道の駅「きらら あじす」指定管理者自主事業を基本とし、市及び地域団体等はその取組を支援していきます。

① イベント啓発、交流事業

地域内の各種団体と連携を図りながら年間を通じた多様なイベントの開催、山口きらら博記念公園等で開催されるイベントとのタイアップなどを通じて、道の駅「きらら あじす」への更なる来場促進を図ります。

a. イベントの充実【継続】

春の恒例行事として定着している道の駅周年記念祭（3月）や農産物の旬の時期に合わせた収穫祭（10月）に加え、阿知須地域で作られたちりめん細工の人形や飾り玉などを組み合わせた吊るし飾り「ひなもん」づくり体験など、多様なイベントを通じて地域外からの新しい「ひと」を呼び込む流れをつくり、交流人口の拡大を図ります。



周年記念祭（3月）

b. （仮称）花の駅おもてなし整備【新規】

道の駅北側には、山口県所有の未利用地が残されています。潤いのある景観づくりを進めるため、ひまわりやコスモスなどを栽培し来場者や地域住民の皆さんの憩いの場となるよう整備します。花の栽培には、道の駅関係者だけではなく、地域の高齢者や子ども達、障がい者施設の方など多くの方に関わっていただく仕組みを検討していきます。



景観作物栽培箇所（予定）



満開に咲くひまわり（イメージ）

c. (仮称) きらら浜連携事業【拡充・新規】

ア. 山口きらら博記念公園で開催される「ツール・ド・ヤマグチ湾」や「きららノルディックウォーキングフォーラム」等の既存スポーツイベント主催者との連携を図り、道の駅の来場者数増加につながる効果的な取組を実施します。

今後、以下の取組を検討していきます。

- ・阿知須温泉と連携し、温泉の割引券配布
- ・特典付（食事・お土産割引等）クーポン券、店頭で記念品配布 等



ツール・ド・ヤマグチ湾（5月）



ノルディックウォーキングフォーラム（9月）

イ. 「スポーツ・食・遊び」をテーマにした新たなイベントの開催に向け実行委員会を立ち上げ検討していきます。

実行委員会は、山口きらら博記念公園をはじめ、山口県立きらら浜自然観察公園、アクティブテラスきららいず、TOTOMATO、道の駅「きらら あじす」のきらら浜の各施設と山口市で構成します。取組としては、きらら浜の各施設それぞれが持つ専門的な知識や設備などの特性を生かしながら、連携・協力により一体となって取り組むオリジナルイベント「(仮称)きらら浜フェスティバル」を開催し、「きらら浜」における周遊性を向上させ、交流の促進を図ります。

d. レンタサイクルの整備【新規】

道の駅を交流拠点として、地域内外の周遊の促進や気軽に自転車を楽しむため、レンタサイクルを整備します。また、阿知須地域の名所や観光スポットをレンタサイクルで巡るサイクルマップを作成します。

② 農産物・特産品の販売促進、供給力向上

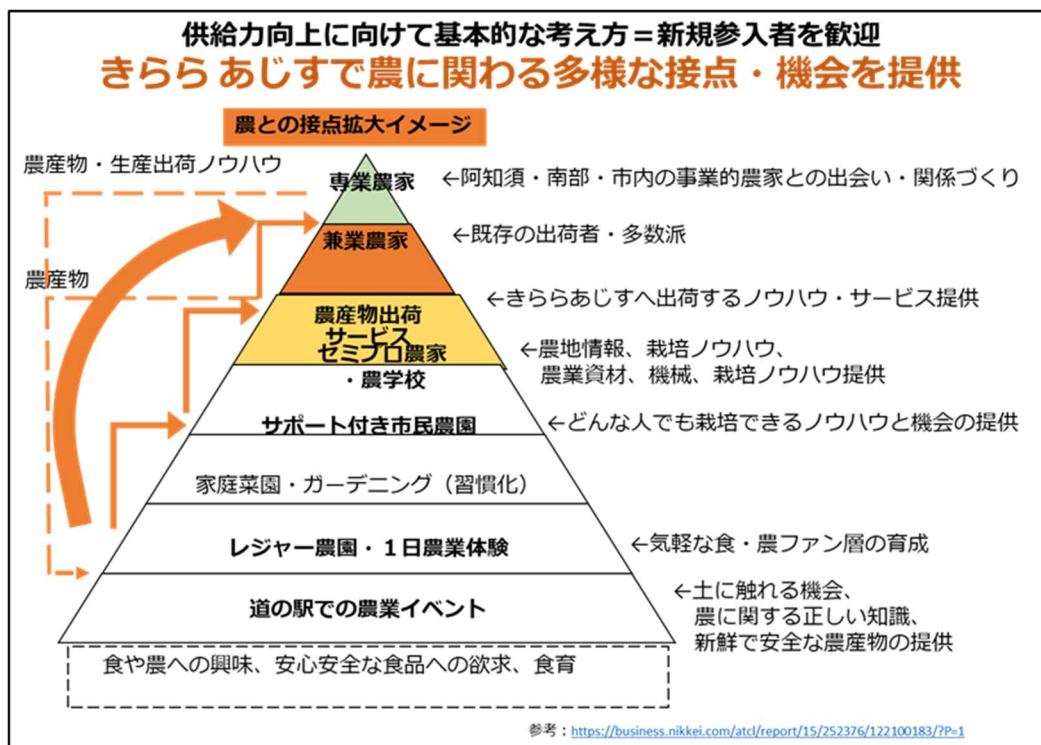
a. (仮称) きらら農園塾の開設【新規】

山口県所有の隣接未利用地を活用し、(仮称) きらら農園塾を開設し、花や野菜の栽培技術を学ぶ講座を通じて、新たな出荷者の掘り起こしにつなげていきます。

掘り起こしにあたり、道の駅「きらら あじす」において農に関わる多様な接点・機会を提供していきます。接点拡大イメージは下図のとおりです。

具体的には、食や農への関心を高める農業イベントの開催から気軽な農業ファン層の顕在化につながる農業体験の実施、そして、定期的に栽培のノウハウから出荷方法、収入確保までのプロセスが学べる機会の提供（(仮称) きらら農園塾を開設）につなげます。こうした啓発と実践の場を通じて、新たな出荷者を体系的に発掘・育成・確保し、供給力向上に直結するプログラムを開発します。

イメージ図



b. 出荷者確保対策【新規】

道の駅における新たな出荷者を育成するとともに、安定した出荷者の確保による品揃えの充実を図るため、「道の駅きららあじす出荷者協議会」との連携のもと、出荷者確保に向けた取組を進めていきます。

現在、阿知須地域では集落営農法人等の大規模経営体と小規模農家への二極分化、土地持ち非農家の増加も進行する中で、「誰を対象に、どのような方法で新たな出荷者の確保・育成をしていくのか」との観点から、次のような対策を検討します。

ア. 地域内非農家の掘り起こし

「道の駅きららあじす出荷者協議会」において、地域内に居住する自給的小規模農家や土地持ち非農家の定年退職者などを出荷者として募り、育成していくことを目指します。しかし、農業を始めるには農業用機械の取得や農業に必要な栽培技術や専門知識の習得などの課題が存在することから、その対策として「(仮称)きらら農園塾」の活用や「道の駅きららあじす出荷者協議会」が講師となり栽培・出荷の知識を習得する研修会の開催などに取り組みます。

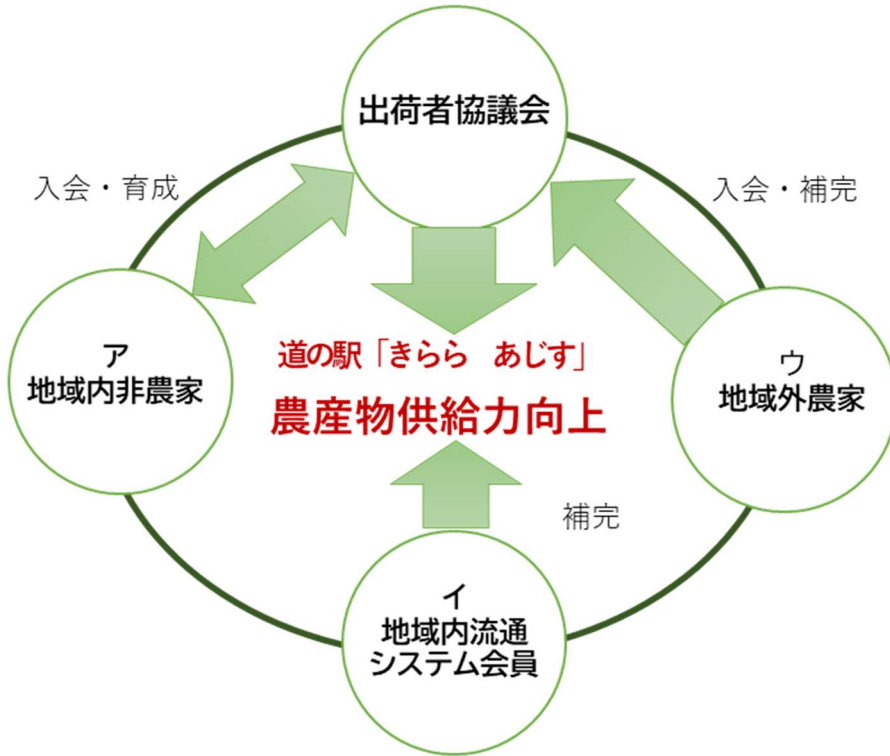
イ. 「地域内流通システム」会員との連携

道の駅「きらら あじす」を集出荷拠点として市内スーパー等へ農産物を流通させる「地域内流通システム」に出荷する会員は、市内南部地域の中規模専業農家で構成され、農業生産の規模拡大に意欲的であり、生産者自身のブランド化に向け取り組まれています。道の駅「きらら あじす」においては、「地域内流通システム」会員との連携強化により、高品質の農産物が確保でき、売り場の充実が図れます。一方で、そのことにより少量多品目を栽培する小規模出荷者は収入の減少により営農意欲の低下が懸念されることから、「地域内流通システム」会員には既存出荷者の出荷量が少ない品目に絞るなどの仕組みづくりを検討していきます。

ウ. 地域外からの参入を検討

地域外の農家が出荷できる体制整備を図ります。現在、道の駅「きららあじす」に農産物の出荷を希望する生産者は、「道の駅きららあじす出荷者協議会」に入会が条件となります。これまでは地元の農家を育成するために会員は阿知須地域の農家、生産組織に限定しています。9ページに記載していますとおり農産物出荷者の減少が課題として挙がる中、「道の駅きららあじす出荷者協議会」とともに阿知須地域外からの参入について検討を進めていきます。

実施後の供給チャンネル（イメージ図）



c. 野菜の品薄対策【新規】

野菜保管冷蔵庫を導入することで、午前中に出荷された野菜の鮮度を保ったまま保管し、午後からの品薄状態の解消を図ります。

d. 農産物栽培講習会の開催【継続】

出荷者協議会会員を対象に実施している栽培講習会を継続して実施します。



花卉栽培講習会



農薬使用講習会

e. 地域内流通システムの運用【継続】

小規模農家の農業所得の向上や生産規模拡大につながる仕組みづくりとして、道の駅「きらら あじす」を集出荷拠点として市内スーパー等へ農産物を流通させる、地域内流通システムの運用に引き続き取り組みます。

地域内流通システム（イメージ図）



f. 特産品開発【継続】

南部地域特産品開発会議等との連携により、「山口きららピクルス」や「ハニージャム」、「くりまさるかぼちゃ焼酎」など、地域の農産物を活用した特産品の開発を進めてきました。今後も阿知須地域における地域資源の磨き上げを図るため、引き続き南部地域特産品開発会議等と連携し、特産品の開発に向けた取組や支援を行います。

山口きららピクルス



山口県の旬の野菜をピクルスにした商品です。原材料の野菜については、本市南部地域を中心に活躍する農家の方から仕入れ、漬け込むお酢は、地元阿知須の醸造業者のものを使用しています。

蜂蜜屋さんの手作りハニージャム
秋穂地域の養蜂家が、阿知須産くりまさると秋穂産とまどを使用してつくったジャム。



くりまさるかぼちゃ焼酎



寒漬

寒漬とは、冬の寒い時期に干した大根を熟成させ、しょうゆベースの調味液に漬け込んだ漬物です。

このたび、6次産業化の取組により伝統の味が復活しました。



③ 人材育成、研修

a. 情報の共有（インナーコミュニケーション※）

近年、組織内部の交流や情報交換を通じて、組織力の強化を目指すインナーコミュニケーションに取り組む企業が増えています。

道の駅「きらら あじす」においても出荷者など関係者とインナーコミュニケーションを通じて、理念や目指すべき将来像、道の駅が持つ価値観の共有を図ります。そのことによって組織全体の一体感を醸成し、生産・出荷に対するモチベーションを高め、道の駅全体の活性化が期待できます。

インナーコミュニケーションの手段として、研修会の開催、会報の発行、SNSやLINEなどのコミュニケーションアプリを活用します。

※「インナーコミュニケーションとは、社内コミュニケーションとも呼ばれ、全社員が企業と共通の目的意識を持てるように、社内に向けてメッセージを発信する広報活動や、社員間コミュニケーションのことです。

b. スタッフの増員【新規】

事業計画の推進にあたり、スタッフの増員を検討する必要があります。

このため、イベントの企画・運営、農産物に対する知識・営農指導等の専門的な実務経験を持った人材の確保に努めます。

c. おもてなし研修会【拡充】

職員の接客の良さは、施設運営において重要な要素となります。すべてのスタッフがおもてなしの心で、お客様目線に立ったサービスの徹底に努め、心から満足いただけるお客様接遇を実践します。このような考えから引き続き研修を実施します。

d. （仮称）きらら農園塾の開設（再掲）

e. 出荷者確保対策（再掲）

f. 農産物栽培講習会の継続（再掲）

④ 環境整備

a. 施設の清掃、緑化作業【継続】

トイレと周辺施設の清掃は1日に数回実施し、清潔で安心して利用できる施設管理を行います。

敷地内にある緑地の芝刈りや樹木の剪定は適時実施し、明るい雰囲気づくりを図ります。

b. (仮称) 花の駅おもてなし整備 (再掲)

⑤ 地域連携強化

a. 学びの場の提供【継続】

観光振興や地域づくりを学ぶ場として学生のインターンシップを、また、働く意義や喜びを学ぶ場として中学生の職場体験を受け入れます。

b. 他団体との連携【継続】

既存商店街で開催される十日市への出店やあじすふれあいまつりへの参加など、地域団体等との連携に取り組みます。

⑥ 情報発信

a. 情報発信機能の充実【新規・継続】

ア. デジタルサイネージ (電子掲示板) の活用

デジタルサイネージを設置し、市内の観光、きらら浜でのイベント、旬の情報など、来場者が必要とする様々な魅力を発信します。

イ. ウェブサイトの内容充実

利用者の利便性の向上を図るため、旬の野菜をはじめ地域の特産品、イベント情報等のコンテンツの充実とウェブアクセシビリティ※の向上を図ることで、見やすく、わかりやすいウェブサイトを目指します。



※ウェブアクセシビリティとは、高齢者や障がい者など心身の機能に制約のある人でも、年齢的・身体的条件に関わらず、ウェブで提供されている情報や機能を支障なく利用できることです。

ウ. SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の活用

特産品などの情報は公式ウェブサイトを通じて紹介していますが、道の駅側からの一方向の情報となっています。

今後は Facebook、Instagram などのソーシャルメディアを活用して、来場者の方からの意見を取り入れながら、地域資源を生かした付加価値のある特産品の開発、イベントなどの情報を広く発信していきます。また、ソーシャルメディアを通じて消費者からの口コミの拡大が期待できます。

b. 道路案内標識の設置【新規】

県道山口宇部線利用者の利便性の向上と施設の利用促進を図るため、阿知須インター出口付近に道の駅「きらら あじす」案内標識の設置を検討します。

5. 進行管理

道の駅「きらら あじす」魅力アップ推進協議会において、この事業計画を着実に進めていくため、計画に係る事業の「進行管理」を行います。

道の駅の売上額及び来場者数の数値目標についても確認していきます。

6. 事業実施スケジュール

道の駅「きらら あじす」の魅力アップに向けて、市が実施する施設整備等のハード事業と指定管理者の自主事業を基本として実施するソフト事業の両面から以下のとおり事業を推進します。

事業内容	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
(1)施設整備					
①施設の増築及び改修		■	■	■	
②駐車場の整備		■			
③屋外トイレの改修		■	■	■	
(2)魅力アップの取組					
①イベント啓発、交流事業					
a. イベントの充実	■	■	■	■	■
b. (仮称)花の駅おもてなし整備		■	■	■	
c. (仮称)きらら浜連携事業		■	■	■	■
d. レンタサイクルの整備			■	■	■
②農産物・特産品の販売促進、供給力向上					
a. (仮称)きらら農園塾の開設			■	■	■
b. 出荷者確保対策		■	■	■	■
c. 野菜の品薄対策				■	
d. 農産物栽培講習会の開催	■	■	■	■	■
e. 地域内流通システムの運用	■	■	■	■	■
f. 特産品開発	■	■	■	■	■
③人材育成、研修					
a. 情報の共有（インナーコミュニケーション）		■	■	■	■
b. スタッフの増員		■			
c. おもてなし研修会	■	■	■	■	■
④環境整備					
a. 施設の清掃、緑化作業	■	■	■	■	■
⑤地域連携強化					
a. 学びの場の提供	■	■	■	■	■
b. 他団体との連携	■	■	■	■	■
⑥情報発信					
a. 情報発信機能の充実		■	■	■	■
b. 道路案内標識の設置		■	■	■	■
魅力アップ推進協議会	■	■	■	■	■